民生文教常任委員会研修報告書

田中貞男

平成２９年１１月８日～９日

鹿児島県鹿屋市

**かのや英語大好き事業**

平成２７年から外国語教育強化地域拠点事業として市内の指定校として高校１校・中学１校・小学校３校が取り組んで来ていたとのことであり。平成３２年度からは全面的に取り組みがされる英語教育について鹿屋市で行われていた、英語教育フォーラムに参加研修させていただきました。

基調講演として文部科学省の国際教育課の金城推進室長の「新時代を見据えた英語教育改革」と題して、５項目からなる講話を聞きました。

「なぜ今、英語教育が求められているか」グローバル化の中で様々な職業につくことになっても国際共通語としての英語は、子供たちに身に着けていく必要があること

から取り組まなければならない。アジア経済圏において日本は遅れていることから早期改革を進めていかなければならない。

「日本の英語教育の現状」は小学校の高学年での意識は７０％が好きと答えいるが、中学生になると約５０％までに落ち込んでいるとのことです。学年が進むにつれて学習意欲が低下してる。

「学習指導要領改正のポイント」は何を理解し何ができるか、理解していることをどう使うか、社会・世界との関わりの中でよりよい人生を送るかを柱にそれぞれの学年での学習内容の取組を進めていく。

「小・中・高等学校における英語教育改革の方向性」小学校では、読み書き、聞く、話すことなどを中心に取り組み、中学校では事業を外国語で対話的な活動、表現などを実際に行う事業、高校では英語でのコミュニケーションを行い発信力を身に着ける。先生方には、学習要領に基づいて様々な取り組みで進めてほしいとのことでありました。

鹿屋小学校のステージでの英語授業風景を見せていただきました。指導の先生二人で授業を行い、英語でのあいさつに始まり、隣の人との英語でのあいさつ、絵カードをみての発表や４線を使っての単語の書き取りなどをしていました。

私たちのまちでの取り組みと少し違っていますが、英語授業としての取組については、文部科学省の指導の基にモデルとしての行っていることが、今後全体で取り組む基礎となることから、取り組み方の勉強になりました。児童・生徒で苦手意識のある子供たちにどのように取り組むか気になるところです。高学年になって会話を取り組む中で日本語の意味を理解してどのように表現をして会話にしていくか気になるところです。

**高齢者元気度アップポイント事業**

高齢者元気度アップ事業について、鹿屋市の川東町公民館で高齢福祉課課長・地域包括ケア推進室と地元見守り隊の説明を受けました。「高齢者元気度アップ事業」は県の補助事業（高齢者の健康づくり・ボランティアと若い人たちと一緒にグループで取り組み地域貢献活動をすることに対して県から補助金がある。）合わせて取り組んでいる。個人向けとグループ向けとに制度が分かれている。介護予防のために両制度も６５歳以上の高齢者に対してポイントが与えられ、特産品か現金化できる。個人向けは参加型とボランティア型がありいずれも１ポイントあり、事業内容の参加型は市指定の介護予防・地域貢献・学習会など参加する。ボランティア型はレクリエーション等の参加支援・散歩・外出などの補助や施設入所者に対しての話し相手など。グループ向けは高齢者の見守り・地域での支え合いの活動・安否確認・サロンの開催や集落での美化活動・公園・道路などの清掃を３人以上で半数以上が高齢者であることと継続的な活動ができること。県からの補助は約３．５／１０であり全体の費用２事業合わせて約１０００万円で行っている。この事業に参加している人は個人が５００人余りとグループは１５４団体、地域は１９団体が行っている。

個人ポイントは上限５０ポイントで５０００円又は５０００円相当のお茶がいただける。グループ向けは上限１２万円で１ポイント１,０００円である。

活動をしている地域の団体の川東町の見守り隊との話し合いと、個人のお宅へも訪問をさせていただきました。この地域は４１７戸の６５歳以上は１８０世帯とのことでした。見守りの協力者は２８人で４０人ほどの方を見守っているとのことでした。活動内容は見回りと話し相手や簡易な補修、台風が多いために雨戸の開閉行い地域内では美化活動を行っている。

介護予防で自分も高齢の一員になりながらも、活動をしていくことで介護予防につながっているし、活動自体はノルマはなく自分のペースで行えて、見守り隊での協力体制ができている。地域の高齢者は地域の人たち皆で見守っていくことの大切さと大変さを聞かされました。行政の一部負担があるにしても協力体制が必要と感じました。